

議会だより

No. 42 2015.11.1 発行

9月定例会



みんなで仮装してみたよ!

平成27年10月7日 うえの保育所 ハロウィンパーティ

- (特集) 小規模保育園.....②
- 委員会報告.....④
- 一般質問(6人が市政を問う).....⑥
- きらきら・人 い~よ.....⑫



lyocity

6,318万円を可決しました!

しました。今回の補正予算に計上された大きな事業として、市内3カ所に新しく開設される小規模保育園について特集します。

●小規模保育園とは？

ゼロ歳から3歳未満児を対象とした、定員が6人以上19人以下の少人数で行う保育です。一人の保育スタッフが担当する子どもの数が少ないため、手厚く子どもの発達に応じた質の高い保育を行うことができます。



みかん保育園

保育方針 0歳児からの乳幼児教育「世界で活躍する子どもを育てる」

設置者 株式会社 遊育 (ゆういく)
定員 18人
職員等 園長1人、保育士4人、パート保育士3人
パート栄養士1人、
調理士1人、パート調理員1人
住所 〒799-3105 伊予市下三谷2439番地13
電話 089-989-5805

【保育内容】

保育時間：7:00～18:00 月～土曜日
休園日：日曜、祝日、年末年始等
保育事業：延長保育 18:00～19:00 (月～金曜日)
完全給食・離乳食



小規模保育園(3施設)運営負担金

9月定例会が8月31日から9月17日まで開催され、補正予算や条例の一部改正等を審議し、いずれも原案を可決、受理、承認

伊予くじら小規模保育園

保育方針 「ねむる・たべる・あそぶ」を大切に。

設置者 社会福祉法人くじら
定員 19人
職員等 園長1人、保育士5人、パート保育士3人
パート栄養士1人、事務1人
住所 〒799-3113
伊予市米湊263番地(郡中小学校前)
電話 089-982-0904



【保育内容】

保育時間：7:00～18:00 月～土曜日
休園日：日曜、祝日、年末年始等
保育事業：延長保育 18:00～19:00
乳児保育 給食(アレルギー除去食有)

伊予ぺんぎん小規模保育園

保育方針 「ねむる・たべる・あそぶ」を大切に。

設置者 社会福祉法人くじら
定員 12人
職員等 園長1人、保育士4人、パート保育士2人
栄養士1人
住所 〒799-3113
伊予市米湊869番地6(いよ整形外科横)
電話 089-995-8181



【保育内容】

保育時間：7:00～18:00 月～土曜日
休園日：日曜、祝日、年末年始等
保育事業：乳児保育 給食(アレルギー除去食有)

●入園や利用料金については？

各保育園の入園に関する手続や利用料金等、ご不明な点がございましたら、伊予市子育て支援課までお問い合わせください。 連絡先 089-982-1111

委員会報告

各常任委員会で審議した主な条例・予算等の概要を報告します。

総務委員会

マイナンバーカード 再交付手数料

問

カードを再交付する際に無料となる「やむを得ない場合」とはどのような場合か。

答 財務課

市町村や個人番号カードを発行する地方公共団体システム機構といった発行主体側のミスによって、個人番号カードが紛失・消失または著しく損傷等した場合、あるいはカードの裏面に住所変更などがあれば追記するがこの追記欄の余白がなくなった場合、また、個人番号等の変更による返納後の再交付や発行主体が誤って交付した後の再交付、国外転出により返納した後の再交付などが想定されている。

情報セキュリティ強化

問

情報セキュリティ強化のためのサーバーを導入すれば、職員個人のパソコンから情報が外部に抜けなくなるのか。

答 総務企画課

今の予定では、このサーバーの中を50個に区分し、その区分した部分が直接インターネットに接続するという形で、職員個人のパソコンが直接インターネットにつながらない状態を構築したいと考えている。そうすることにより、自分自身が持っている情報がインターネットに直接抜ける道がなくなる。

問

50台に限定した理由は。

答 総務企画課

現在、庁内にインターネットに抜ける情報系パ

民生文教委員会

学校給食センター 備品購入費

問

現在、各調理場で使用している調理用備品等は新センターで再利用できないのか。

答 教育総務課

現在、市職員と大型厨房機器メーカーとで各施設の洗い出しを行っており、新施設の規格に適合した備品リストを作成する予定である。

有効活用できる備品等は、経費削減も含め、できるだけ再利用するなど供用開始に間に合うよう準備を進めている。



再利用予定の食缶類

マイナンバーカード (今後の対応)

問

通知カードの受け取り拒否の対応は。

答 市民税務課

通知カードは、地方公共団体情報システム機構から一斉に転送不要の簡易書留で発送され、市民が何らかの事情等で受け

取れなかった場合は、最終的に市に届く予定である。届いた通知カードは3カ月程度預かり、その間に本人と連絡を取ったり調査等を実施してお渡しすることになるが、受け取り拒否する場合は、来年1月以降、各種申請時に個人番号が必要であること等を説明して、ご理解がいただけるよう対応する。

問

個人番号カード(写真付)の申請と受け取り方は。

答 市民税務課

通知カードが届いた際に、一緒に申請用紙が入っているのですが、その用紙に自分で顔写真を貼って機構に返送しておくこと、来年1月以降に、市に届く予定である。

その後、市から本人に文書で通知し、窓口で、通知カードと身分証明書

等で本人に間違いのないか嚴重に確認した後、交付する予定である。

産業建設委員会

区域外道路線の認定

問

認定の承諾後、伊予市と松前町の対応はどうなるのか。

答 土木管理課

松前町も同様の案件を9月議会に提案する予定であり、今後、伊予市から松前町へ議決書を送り、松前町からも議決書をいただくことになる。

その後、12月議会で伊予市が松前町区域の市道認定を行い、また、松前町が伊予市区域の町道認定を行う予定である。

認定後、道路管理のための協定書締結、道路区域の変更、そして供用開始となる計画である。

**松くい虫枯損木伐倒
駆除業務委託料**

問

松くい虫の枯損木を切った後、どのように処理しているのか。

答 農林水産課

作業内容としては、枯損木の伐倒を行い、その後、玉切りし薬剤を散布する内容である。

また、玉切りした薬剤散布後の松については、安全や景観に配慮して林内に置いておく。



枯損木伐倒駆除作業の様子

議案等議員別表決結果一覧表

※賛否の分かれた案件のみ記載しています。そのほかの案件については全会一致で可決されました。

平成27年第7回(9月)伊予市議会定例会
〔会期：8月31日～9月17日 18日間〕
(賛成：○ 反対：×)

議席番号	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	19	20	議決日
氏名	三好正	大野鎮司	高田浩司	北橋豊作	日野猛仁	門田裕一	佐川秋夫	正岡千博	谷本勝俊	田中裕昭	岡田博助	田中弘	武智実	久保榮	日野健	若松孝行	水田恒二	西岡孝知	議決日
議決結果	○	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9月17日
議案第76号	伊予市老人デイサービスセンター条例の全部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
議案第81号	伊予市ふたみ基幹集落センター条例を廃止する条例について	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
議案第82号	大洲・喜多衛生事務組合規約の変更について	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
議案第83号	伊予市老人デイサービスセンター「じゅらく」の指定管理者の指定について	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
議案第85号	平成27年度伊予市一般会計補正予算(第6号)について	○	○	○	○	○	○	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
発議第6号	日本政府に「核兵器全面禁止・廃絶国際条約」の締結のための行動を求める意見書の提出について	○	○	○	○	○	○		○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	×
陳情第5号	日本政府に「核兵器全面禁止・廃絶国際条約」の締結のための行動を求める意見書提出についての陳情	採択	○	○	○	○	○		○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○
陳情第7号	本市が直面する高齢化社会に順応した福祉サービスの充実及び公共施設の使用方法などを見直した庁舎等の建設計画に変更すること等を求める陳情	不採択	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

〔○:賛成 ×:反対 ※正岡千博議長は採決に入っておりません〕

6人が市政を問う

「一般質問」とは、行財政全般にわたる議員主導の政策の議論です。



水田 恒一 議員

伊方原子力発電所

問

伊方原発再稼働に対する見解は。

答 市長

伊方原発再稼働については、8月20日の大洲市での説明会において関係機関による説明があり、理解や周知を図る貴重な時間となったのではないかと思っている。私としては、市民の代表たる市議会議員のご判断を、重要な判断材料とさせていただきます。ただ、先ずの市議会の陳情第3号に対するご決定、また、継続審査となっている陳情

第1号に対するご決定を踏まえ考えていきたい。

すなわち委員会や本会議でのご意見を参考とさせていただきます。ただ、所存である。

問

30キロ圏問題と避難計画は。

答 市長

現在の広域避難計画は、伊方発電所から半径30キロ圏内の住民を迅速に市町境界を越えたより安全な場所に避難させるものとなっている。しかし、風向き等によってはより広範囲な汚染の可能性があり憂慮している。

ただ、30キロ圏外の住民の避難体制の確保等に係る調整は、市単独では難しく、また、県広域避難計画とも整合性を図る必要がある。今後、圏外の避難計画策定に関して、対象となる他市町とも連携し、国、県に要望していきたい。

コミュニティバスに 関連して

問

市民への浸透が弱いのでは。

答 市長

2カ月間の利用実績からみても、ご指摘のとおりと考えざるを得ない。

運行前の周知としては、本庁地区の広報区長さんや主な利用者となるであろう高齢者などへの説明会の開催、また、市ホームページや広報いよしへの記事掲載など、考えられる媒体を活用してPRに努めてきた。今後、広報いよし10月号に利用促進に関する記事を、11月には、本庁地区で啓発チラシの回覧を予定するなど、機会を捉え、認知度向上策を強めていきたい。

問

バス停の位置、名称に更なる工夫が必要では。

答 市長

本市にも、一部バス停の位置が分かりにくい、名前が馴染まないなどの意見が届いている。

現在は実証運行中のため、正式運行への移行に資するデータの調査や利用者アンケートなど必要な情報を集積させる予定である。また、その結果を考慮し、バス停の位置や名称など検討したい。



現在運行中のコミュニティバス『あいくる』(ワゴンタイプ)

その他の質問事項

- 雨水排水計画
- 耐震診断・耐震改修
- 空き家対策
- ため池土手や地山の浸食
- 給食センター建設

一般質問

質問や答弁等の内容を詳しくお知りになりたい方は、伊予市ホームページ (<http://www.city.iyo.lg.jp>) の会議録検索システムをご覧ください。(随時更新中)



日野 猛仁 議員

児童の安心・安全

問

PTA主体の地区別懇談会で寄せられた要望への対応は。

答

教育長

現在、地区別懇談会を実施している小・中学校は7校あり、そこで出された要望等については、学校やPTAで対応したり、広報区長を通して本市へと上がっている。

本市に出された要望については、担当課で検討しており、教育委員会に関係する内容があれば、こちらで必要性、緊急性等を精査したうえで対応

している。また、その結果については、要望をいただいた方に報告することになっている。

問

ゾーン30の有効性は。

答

総務部長

ゾーン30は、警察庁が全国で計画的に整備を進めている事業であり、昨年、伊予署管内で初めて伊予小学校周辺に整備された。導入後の効果は、具体的な調査が行われていないため明確になっていないが、走行速度の抑制に一定の効果があつたと聞いている。

今後、伊予署と連携し、この効果の検証を行い、自動車の通行よりも歩行者・自転車の安全確保が優先される道路空間が形成されるよう努めたい。

問

通学路における危険箇所のカラー舗装化を。



通学路におけるカラー塗装 (伊予小学校前)

答

総務部長

市内小学校の通学路点検は、毎年、7、8月に学校、警察、本市等の関係者で協議会をもち、合同点検を実施している。

この点検において、危険度の高い交差点等を調査し、歩行者やドライバーに危険箇所であることを知らせる必要があると判断した箇所については、市道のカラー舗装化を進めている。

今年度は7小学校、市道9路線を対象に実施する予定である。

郡中地区公民館の今後

問

今後の郡中地区公民館の整備計画と閉館中における活動支援は。

答

教育長

現在、ふるさと創生館に移転する計画で準備を進めており、公民館長や公民館主事も、そこに滞在する予定である。

計画では、公民館の解体は、平成28年8月以降のため、来年7月末までは現在の建物が使用可能である。

閉館中の活動支援については、現在の各施設の管理規則に従った使用をお願いするしかないが、今後、使用料の減免基準も含め、どのような支援が可能か早急に検討し、使用される皆様に、なるべく早くお知らせしたい。

その他の質問事項

●のぼそう健康寿命

こころが聞きたい



大野 鎮司 議員

若者の夢への チャレンジを応援

問

若者が将来の夢を実現するためのチャレンジに対して、助成金を支給するなど、若者に光を与えることはできないか。

答 市長

近年、急速に少子化が進行する中、次代を担う若者への支援は重要な施策である。

本市の市制10周年記念事業でも取り入れたように、市民側からの提案により採択事業を決定する仕組みは、参画と協働を進める点から、また市民

意識の高揚や新しい人材を発掘する点からも有効な手法である。来年度以降本格化する「まち・ひと・しごと創生」の取り組みにおいて、子育て支援充実の一環として導入が可能かどうか検討したい。

地域防災力アップや 救命率アップによる 安心・安全な伊予市を

問

市内のAED設置数と、そのうち夜間、休日など、いつでも使用できるのは何台か。また、AEDマップを作成しては。

答

総務部長

現在、AEDは、市の施設に77台設置しており、その内訳は、伊予地区49台、中山地区18台、双海地区10台である。そのうち、夜間、休日等に使用できるのは8台で、内訳は、伊予地区4台、中山

地区2台、双海地区2台である。それに加え伊予警察署及び消防署が所有する救急車にも搭載しており、直ちに稼働させるべく対応をしている。また、AEDマップについては、防災マップの中に掲載する予定である。

問

「折りたたみ防災ヘルメット」を小・中学校に配付しては。

答

教育委員会事務局長

防災ヘルメットの必要性は十分に理解しているが、小・中学校だけでなく、幼稚園や保育所にもヘルメットを配備すると多くの財源が必要になる。他市のように企業や市民からの寄付で配備する方法も考えられるが、寄付の依頼は教育現場になじまないため、その機運が高まれば、再度対応を検討したい。

問

鳥ノ木地域の迅速な避難行動のため、八反地川に避難用の橋を設置しては。(パート2)

答

産業建設部長

現在、下三谷・鳥ノ木南地区計画策定業務で、ウエルピア伊予の活用に関する今後の方向性と災害時の避難場所、避難経路用の橋梁について設置位置、規格等を総合的に検討する予定である。また、八反地川は県管理の二級河川で、占用等の問題もあり、当局との協議も必要となる。いずれにしても、計画策定後に財政面を含め、検討したい。



鳥ノ木団地沿いを流れる二級河川の八反地川

一般質問

質問や答弁等の内容を詳しくお知りになりたい方は、伊予市ホームページ (<http://www.city.iyo.lg.jp>) の会議録検索システムをご覧ください。(随時更新中)



田中 弘 議員

伊方原発3号機の安全対策

問

モニタリングポストの増設と避難場所(総合保健福祉センター)に新たに設置しては。

また、UPZ(※)圏外の避難対策は。

答 総務部長

本年度、県から1基のモニタリングポスト設置に関する調査依頼があり、UPZ圏内の富貴公民館(双海町)付近に1基を設置するべく協議を進めている。これは、原子力安全委員会の審議において、UPZ圏内では、迅

速に環境放射線モニタリングを行うための施設・設備・体制を整備する必要があるとされたことから、UPZ圏内を目安に調査範囲を拡大することとなったものである。

また、現状では、UPZ圏外の総合保健福祉センターへの設置は難しいと思われるが、下灘中学校跡地のモニタリングポストの移転と併せ、県に設置拡大等について要望したい。

UPZ圏外の避難については、今後、圏外の避難計画策定に関して、対象となる他市町と連携し、国、県に要望したい。

※ UPZとは?

緊急時防護措置準備区域といわれ、国際原子力機関が概念を示し、原子力施設からおおむね半径30kmの範囲で防災対策を重点的に行う区域のこと。住民の避難や屋内退避を準備することに役立つ。



電子線量計(モニタリングポスト)

市民の健康増進(ウェルピア伊予の活用)

問

市民の健康増進のために健康運動教室の取り組みを推進しては。

答 産業建設部長

健康運動教室としては、既にヨガ教室、ピラティス教室の2教室を主催事業として開催している。

ヨガ教室の実績は、毎月12回実施しており、平成26年度の延べ受講生数は、146人となっている。

ピラティス教室の実績は、毎月4回実施しており、延べ受講生数は38人との報告を受けている。いずれも、脂肪燃焼・基礎代謝向上、新陳代謝向上等の効果を期待した事業である。そのほか、会場提供事業として、空手、新体操、少年サッカー教室等も行っている。また、未病事業の一環として、歌声喫茶で発声を促すことにより、認知症予防にも努めている。



その他の質問事項

● クラフトの里の「道の駅」登録

こころが聞きたい



門田 裕一 議員

土砂災害に対する警戒
避難の体制づくりを

問

「知らせる力」と「知らせる力」の取り組みは。

答

総務部長

住民からの通報には、職員が調査に出向き、その報告等を関係部署で共有するとともに、迅速的確な災害情報の発信に努めていきたい。

行政の「知らせる力」と市民の「知る力」が、うまく連動すれば土砂災害からの避難に強力な力となることは疑いがなくその考え方をもち、今後とも対応を強めたい。

問

タイムライン（防災行動計画）の策定を

答

総務部長

大きな被害が想定される場合には、早めの自主避難の周知、豪雨や高潮等の被害対策が必要と考えられる場合は、関係部署への指示等を行い迅速な対応に努めている。

今後も迅速な対応に努めるとともに、先行事例を参考にタイムラインの策定に向け研究したい。



道路災害の様子（双海町池窪朝ヶ峠線）

問

認知症高齢者対策

認知症の予防対策は。

答

市民福祉部長

特定健康診査や検診結果の指導、健康教室等を行う中で、若い年代から食生活・運動・喫煙・飲酒等の生活習慣を改善することは、認知症発症のリスクを下げ、予防につながる。また、認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進として、認知症予防教室や認知症フォーラムを開催している。さらに、昨年導入した認知症初期症状スクリーニングシステムは好評をいただいているので、さらに周知に努め、利用度を高めたい。なお、相談窓口やサービス・事業をわかりやすくまとめた「認知症あんしん手帳」を作成しており、市民への普及を推進したい。

問

見守り用「ステッカー反射材」の導入を。

答

市民福祉部長

位置情報がわかるGPS機器と比べ、徘徊者が機器を持ち出さなかったり、充電が切れてしまったりといった問題はなく、比較的安価で利用しやすい利点はあるが、本人や家族の理解、配慮が必要なほか、関係機関との連携や市民への周知といった課題もあり、今後、慎重に検討したい。

本市として、新オレンジプランにも示されているとおり、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で、自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。その他の質問事項

● インターネットリテラシー・情報マナーの取り組みについて

一般質問

質問や答弁等の内容を詳しくお知りになりたい方は、伊予市ホームページ (<http://www.city.iyo.lg.jp>) の会議録検索システムをご覧ください。(随時更新中)



日野 健 議員

市町村合併の検証

問

本市の合併検証をした結果、その課題と対応は。

答 市長

昨年度の合併検証の結果、「行財政の効率化」、「住民サービスと利便性の維持・向上」、「住民コミュニティ活動の活性化と一体性の確保」の3点が重点的に取り組むべき課題として掲げられている。その解決に向けては、いずれも長期かつ多岐にわたる取り組みが必要であり、県あるいは市町のみで対応できるものではないことから、双方

の力を結集し、「チーム愛媛」一丸となって対処していかなければならないと確認している。

問

今後のまちづくりに、どのように反映させるのか。

答 市長

現在、第2次総合計画や総合戦略の策定に取り組むとともに、過疎地域自立促進計画の見直しを進めている。

これら計画や将来ビジョンには、合併検証結果のみならず、様々な手法・手段により把握した市民の皆さんの意向やニーズを十分に反映させていくよう鋭意作業を行っているところである。なお、合併10周年記念事業では、今年度末まで多種多様のイベントなど、市民の皆さんからのお考えも入れ、きめ細かく実施することになっている。

自然災害への対応

問

過去5カ年での土砂災害の発生件数は。

答 総務部長

豪雨などによる過去5カ年の土砂災害の発生件数は、がけ崩れが8件発生している。それ以外の土石流、地すべり等の土砂災害はない。

問

ため池決壊による被災者への支援は。また、中規模以下のため池ハザードマップを作成しては。

答 産業建設部長

東日本大震災による福島県の悲しい例からも本市では有事に備えて、ため池の危機管理マニュアルを作成し、被害を最小限に抑えるべく適切な行動を取る必要があると考えている。被災者への支援につい

ては、地域防災計画に基づき行っていくべきと考えるが、議員ご提案の市独自の生活支援マニュアルの必要性の是非も含めて、危機管理部門と検討したい。

また、中規模以下のため池ハザードマップ作成は、ため池の改修と併せて実施できる事業もあるため、今後、詳細な検討を加えてみたい。



新池 (伊予市宮下)

その他の質問事項

- 教育制度と歴史教育
- 農業・農村問題
- 「えひめいやしの南予博2016」の取り組み
- 市街化区域内の道路整備
- 建設業の現状と入札制度

読み語り隊

モットーは「語りかけること」です

●設立の経緯

平成16年7月に、小学校での読み語りボランティア募集への応募をきっかけに設立。

●活動の目的

お話の世界を舞台に、子どもたちの「ボランティアの芽」を育み、自分たちが誇りに思える故郷づくりを行うこと、そして、子育て世代が今よりもっと暮らしやすい地域づくりに取り組んでいくこと。



橋本千春隊長

■主な活動内容

伊予市双海町内で活躍するボランティア団体で、橋本千春隊長ほか14人が「子どもたちに強制的に読み聞かせるのではなく、語りかけることで理解を深めてもらう」ことをモットーに活動を行っている。※現在、双海町内3つの小学校に向けて「子ども読み語り隊」を募集中、すでに応募した隊員が双海町内で各イベント等を主催している。

子どもたちが、いつかお父さんやお母さんになったとき、わたしたちのことを思い出して、じぶんのこどもに絵本をよんであげてくれたらうれしい。ちいさなときから、「じぶんにできること」ってなんだろうと考えることができ、じぶんの時間をつかって、楽しみながらだれかのために行動すること。そんなボランティアの芽が育ってくれたらいいなと考えています。
(隊長の言葉より)



今年「動画人形劇」に挑戦!



■子ども読み語り隊

現在47人の隊員で活動。保育所やデイサービスセンターなどの施設に出向いて、自分達で創作した人形劇や紙芝居を演じている。

子どもたちの視点による地域の魅力を市民の皆さんに発信している。

編集後記

秋も深まり、朝夕めっきり冷え込む季節となりました。今年の特集ページでは、今年度、新設された小規模保育園を取り上げております。少しでも待機児童解消になればと、市も様々な事業に取り組んでおりますので、ぜひ御覧ください。また、地方創生や人口減少対策にも市民の皆様

の声を聞きし取り組んでまいります。

今後より一層、市民の皆様に親しみやすく、読みやすい議会だよりとなるよう、ご意見やご要望等ございましたら、何でもお気軽にお申し付けいただければ幸いです。

文責 大野 鎮 司

議会広報調査特別委員会

- 委員長 高田 浩 司
- 副委員長 大野 鎮 司
- 委員 三好 正 司
- 委員 北橋 豊 司
- 委員 日野 猛 一
- 委員 門田 裕 一
- 委員 谷本 勝 俊